

明治三十九年

会日 毎月八日

- 一、二、三、六、十、十一
- 四、五、七、八、九、十二

(二月)

一月一日 乙巳 月曜 晴朗。

朝六時起。四方拜。畢而挙家一同椒酒、雑煮、食堂に集る。畢而家内一同、越年生徒六人を拉して氷川神社に参詣して帰。賀客清水連郎、其外続々来。予も今年六十七歳の齡を重ね、家内に病人もなく頗**健康**、めてたき新年也。

発信 新年状二百五十枚。

*健康(健康)

一月二日 丙午 火曜 晴朗。

朝六時起。神拝済て、七時半食堂に集る。雑煮餐して試筆する。石山基陽を始として賀客来る。

一月三日 丁未 水曜 晴朗。寒甚し、三十三(度)。

朝六時起。神拝済て本日ハ桃子、菊江の催し、正午茶事。松田氏、予、愛治郎の三客也。新年の**趣工**すへて妙。二時後畢。賀客、大炊家政、五島盛光、石山すま子、山形きく。夜**かるた会**十三人。十二時済。

*趣工(趣向) *かるた会(カルタ会)

一月四日 戊申 木曜 晴。約束 閑院宮様午下早々。

午下一時より閑院宮様え参り、御二所様に拝謁。此時、小松宮頼君様も成らせられ、御祝酒御陪食す。姫宮様方御試筆被遊、四時退出す。姉小路公政伯来。

受 閑院宮御息所より帯地拝領。

一月五日 己酉 金曜 晴。

午下早々三条家二行、御年始申上ル。治子様御初、公美様御夫婦御一同に御目に懸り御祝酒を戴て去る。九条家に行。先、恵子様に御目に懸り、一位様薨去の御弔詞申上る。三日午後一時発病、三分間にて薨去成りたる趣、実に御残念限りなし。御暇乞も申上る。御急病ニ付生たる御顔の如し。道実様外御一同様にも弔詞を伸て去る。東伏見宮様え参る。両殿下に拝謁、御祝酒戴、五時退出する。帰宅するや否や、六時過北白川宮様より電話にて、閑院宮様只今御炎上の(由)申さるゝや、直に小川をさし上る。一同御様子いかゝやと御あんし申上る。其内鍋島邸え御立退被遊たるよし伺て、先々安心。七時過、火静りたるよし也。

*御あんし(御案じ) *火静りたる(火鎮りたる)

一月六日 庚戌 土曜 晴、風。 約束 小松宮様午下二時。

朝飯早々閑院宮様え参る。直々御子様方御怠もあらせられぬ御様子にて、宮様御息所様にも拝謁して、御動揺もあらせられず、大く安心致しぬ。若宮様の御書院、姫宮様御学問所、御ひかへ間、御息所の御坐等すへて焼失、実に惨状申方なし。御清所、女中部屋ハ焼残りたり。十二時比帰宅する。午下二時より橋場小松宮様え参る。頼君様御待兼のよし、早々御奥え参り御年詞申上る。種々の御話しありて、御苑中の故宮様の御霊社立派に御出来にて参詣する。御祝酒戴いたゝき、五時前去る。六時前帰宅す。

*御怠(御恙) *御ひかへ間(御控へ間) *戴(いたゝ)(衍)ゝき

一月七日 辛亥 日曜 晴。

人日。七草粥を祝ふ。明日の準備する。午下岡崎忠子、よし子来る。塾生続々帰塾する。
受 鶉飼春江、白紬一反。

一月八日 壬子 月曜 晴朗。

始業式。午下一時、生徒一同参集、式始まる。一、君か代奏して校長新年の辞を朗読、畢而校歌ヲ唱し、須川氏馬の説明講演、畢、三年、四年、五年唱歌、式全畢。女学世界より写真師来り、庭中にて生徒の撮影、畢而福引。四時過全畢、皆退散す。夜十一時地震ス。

一月九日 癸丑 火曜 晴。

授業始、午前九時より。来客、富永発寂、牧野精一。

*富永発寂(富永発叔)

一月十日 甲寅 水曜 陰。夜十一時頃より大雨一切りつゝ幾度となく降出。大雨盆を覆す。授業畢る。午下早々弥生町なる堀田家に行。例の発会て五時済、後は新年祝酒にて夕餐後七時過帰。来客、古屋朝子。

*一切り(一しきり)

一月十一日 乙卯 木曜 晴。

授業例の如し。来客、石山吉子。

一月十二日 丙辰 金曜 晴、風。

授業例の如し。明日の準備二鬧し。

一月十三日 丁巳 土曜 晴朗。三十三(度)。

泉会発会ニ付休業。第四教場、食堂裝飾奇麗に出来たり。裁縫教場、式場とす。会員座蒲団と出す。午下一時半、直に集る。予、挨拶有て、信夫如軒氏、忠臣藏実説談二席面白し。畢而食堂ヲ開く。椒酒、ゴマメ、数の子、たゞき牛房、仙台雑煮、すもし。食事中、持寄福引にて、点灯頃めて度済。会する者六十四人。

*座蒲団と(座蒲団を) *めて度(目出度)

一月十四日 戊午 日曜 晴。三三(度)。

来客、橋本亀子、其娘、大城栄子 入門ス、其悴富士雄、大森弘視。

一月十五日 己未 月曜 晴。三三(度)。約束 午後三時金山尚志君送別会、華族会館え。

授業例の如し。墓参して帰。来客、葉室後室、阪田公栄。

一月十六日 庚申 火曜 晴。三三(度)。

酒井伯え年始に参る。御祝酒、午餐を饗せられる。已而帰。午下より姉小路、大炊氏に年詞を申て、三条家に行。此度末子様、山尾庸三子の子息と結婚の約齊ひ、二月三日御輿入に付、松魚、白紋羽二重を祝ふ。已而御暇申て高樹町え行。暫時談話有て帰。帰途閑院宮様を詣して、御息所様御機嫌を伺ふ。先々御動しも治らせられて安心致して去る。七時頃帰。

一月十七日 辛酉 水曜 晴。三三(度)。約束 愛国婦人、偕行社ニテ午下一時より互礼会。

課業例の如し。午下早々、石本氏、児玉氏を問て偕行社ニ行。大山元帥臨席にて祝文朗読。次會長答辞アリ。立食畢而園中に撮影す。已而帰。

受信 毛利美佐子

発信 毛利美佐子、松瀬氏。

一月十八日 壬戌 木曜 晴。

課業例の如し。来客、今城友子、志賀重昂。来ル廿二日、故千久子十年祭ニ付、贈りものす。発信 万里小路、**重たけ**、沼津良子様、**みの**遠藤、木津願泉寺、外に御寺御所、**みの**青木氏。

*重たけ(重威) *みの(美濃) *みの(美濃)

一月十九日 癸亥 金曜 晴。夜雨ふる。

課業例の如し。晡時、桃子と本郷**わたり**へ散歩して帰。泰、鶴子、大森え行て雨に逢て帰。

鈴木泰子、風呂敷、半襟。小樽吉田米三郎、鮭の糟漬。

発信 越中関一郎氏。

*わたり(辺り)

一月二十日 甲子 土曜 晴。約束 婦人世界口画二月分。

受信 京都近万より真綿少々。

一月二十一日 乙丑 日曜 大寒。晴。

来客、姉伯、**はし岡**、裏松千代子。

受信 沼津姉小路良子殿。

*はし岡(橋岡)

一月二十二日 丙寅 月曜 晴。三十(度)。

予等休業す。正午墓参して帰る。御霊前装飾、家内打寄神饌供する。午下二時の案内にて、来客、姉小路公政、石山基弘、吉、すま子、大炊御門晨子、跡見玉枝、津田夫婦、山形さく、北村、鷺田、家内不残。氷川神社宮司毛利氏来、祝詞を読む。四時後食事、賑々しき事也。退散九時過也。

一月二十三日 丁卯 火曜 晴。三十三(度)。

発信 沼津姉小路様、房州万里様、房州あとみえ。

*あとみ(跡見)

一月二十四日 戊辰 水曜 旧の大晦日。曇。三十二(度)。

朝九時比より雪ふり出し密雪不絶、午下二時比には一寸位積る。

受信 御寺御所、[みの遠藤氏](#)、三条家山尾氏両家紹待状。

*みの(美濃) *紹待状(招待状)

一月二十五日 己巳 木曜 旧の元日。晴。三三(度)。

朝起。雪五寸積る。又ちら／＼ふる。四時頃晴る。

一月二十六日 庚午 金曜 晴。三五(度)。

課業例の如し。少微恙ありて臥。皇后宮をはしめ女官様え汲泉献上する、園祥子様より。

一月二十七日 辛未 土曜 晴。四〇(度)。

来客、(空白)久子、三条末子様御暇乞に成ら(せ)られる、石本後室。

受信 房州重威より。

一月二十八日 壬申 日曜 晴。四十(度)。

来客、藤堂俊子、橋本まち、石山すま子。入塾、島田柳子。

一月二十九日 癸酉 月曜 晴。三十二(度)。
年始状三百八十通請ル。

一月三十日 甲戌 火曜 晴。三八(度)。 約束 清国載沢殿下招待、本日午七時半、鍋島邸。

孝明天皇御祭日、休業。午前中山家に行き、愛子様御逝去ニ付弔詞を申す。孝丸様、栄子様にも御目にかゝり、御棺前参拝して帰。午下六時半出門、鍋島邸に行。東洋婦人会より清国載沢殿下一行を招待する。一同御挨拶有て後、余興、一蝶斎手しな数番あり。畢而立食、畢而殿下と同じく退散す。十時帰。

*招待する(招待する) *手しな(手品)

一月三十一日 乙亥 水曜 晴。三七(度)。

課業畢る。午下一時より散歩して、中山愛子様御葬儀拝見して、大炊氏え行。晡時帰。夜〇時四十分、浅草大火。

受信 中村多佳書及小包物、久岡あさ子。

(二月)

二月一日 丙子 木曜 雨。夜、大雨降つゝく。

課業例の如し。志賀氏講演あり。

二月二日 丁丑 金曜 小雨。44(度)。

課業例の如し。

二月三日 戊寅 土曜 晴。40(度)。 約束 三条家、山尾氏招待、午下六時華族会館にて。

来客、山本雪子、其姉と退校御礼に来る。午下五時、酒井夏子夫人御馬車にて、同乗して華族会館に行。暫ひかへ所にて、続々来会者も来。閑院宮殿下御台臨あらせられる。七時立食所に

集まる。山尾庸三氏及子息三郎、末子様御結婚の披露。三条公挨拶、閑院宮殿下御祝詞、三浦安の演説、畢而山尾三郎、末子の万歳三唱。此間すへて奏樂。実に盛なる祝宴なり。九時全畢。十時帰。

受 山本雪子より、紋羽二重一反。

*ひかへ所(控へ所) *及(ママ)

二月四日 己卯 日曜 節分。晴。41(度)。

来客、万里伯。

二月五日 庚辰 月曜 晴。35(度)。 約束 山内旭花様よりの約束、明六日出向ル。

課業例の如し。

二月六日 辛巳 火曜 晴。34(度)。 約束 午下山内氏え行。

午下早々、山尾氏、三条家、山内家に行。夜に入て帰。月如鏡。

二月七日 壬午 水曜 晴。34(度)。

課業例の如し。夜、玉枝来る。

二月八日 癸未 木曜 晴。41(度)。

午前十時より電車ニテ高樹町に行。帰途、閑院宮様に詣して御息所と暫時御談話申上而帰。晡時也。来客、井上頼国氏。不在不逢。

二月九日 甲申 金曜 雪。41(度)。

明かたより雪ふり出て一寸計積。終日降つゝ。五寸余二つもる。入塾、(以下記述ナシ)

二月十日 乙酉 土曜 晴朗。41(度)。 約束 井上頼国、明日来。

昨日の雪積八寸位。泉会、道路泥濘、集会人三十二人也。志賀氏講演四時済、後席、互に談話にて晡時点灯、皆退散。

二月十一日 丙戌 日曜 晴。 34(度)。

紀元節。東北凶作地慈善の為、音楽会二行。愛治郎、桃子、菊枝、生徒と十二人連。来客、井上頼国、久々にて旧を談す。

二月十二日 丁亥 月曜 晴。 41(度)。

課業例の如し。

二月十三日 戊子 火曜 晴。 38(度)。

来客、茂木恒子、中村元子。
茂木氏より、白羽二重一反。

二月十四日 己丑 水曜 晴。 34(度)。

課業例の如し。来客、山内旭花様。

二月十五日 庚寅 木曜 晴。 38(度)。

課業例の如し。来客、内海静。

二月十六日 辛卯 金曜 晴。 41(度)。

課業例の如し。

二月十七日 壬辰 土曜 晴。 41(度)。

正午より橋場小松宮邸に詣し、故宮殿下御三年祭二付御霊前参詣し、頼子殿下と暫時御談話申て去る。三条心浄院様を訪ふ。折節京極氏隠居、奥方も御出にて暫時御話して帰。帰途、田村氏を訪て帰。

二月十八日 癸巳 日曜 晴。 風。

来客、増田義一氏、岡崎忠子、石山すま子。
受信 関博直より書至。

二月十九日 甲午 月曜 晴。41(度)。
来客、玉置愛子。訃音、長州古谷貞子。

二月二十日 乙未 火曜 雪。41(度)。

朝より雪降り出し、春の雪ながら積事一寸計。来客、安田善一郎。

二月二十一日 丙申 水曜 雨。42(度)。

課業例の如し。終日雨降つゞく、夜までも。

二月二十二日 丁酉 木曜 雨。46(度)。

課業例の如し。来客、井上頼国。

受信 廿四日、[歌舞伎座](#)、コンノツト殿下招待二付参集の事。

*[歌舞伎座](#)([歌舞伎座](#))

二月二十三日 戊戌 金曜 雨。朝より雨つゞき、あられ、みぞれ降りしきる。45(度)。

課業例の如し。来客、女学世界記者中村鈴子、[愛国夫人記者兼田千代](#)、外に——(記述ナシ)。夕七時頃強震。

*[愛国夫人記者](#)([愛国婦人記者](#))

二月二十四日 己亥 土曜 曇。42(度)。

朝九時半強震あり。□時一時四十分也。午下七時より、余、桃子と同しく[歌舞伎茶や](#)やまとに行。安田善治郎夫婦、善三郎夫婦と銚子と同道にて、又田村長子、盛子も同道にて[歌舞伎座](#)に行。其裝飾之立派なる、実に実業団体ならてハと思ふ。未曾有の盛会也。九時過てコンノツト殿下、其外わか皇族殿下、妃殿下も成らせられる。其外見所ハ夫人、令嬢こゝをせん度とかざりたて、軍人たちの徽章[サンラン](#)たる、場内かゝやき渡りたり。すへてよく行届きたり。第、日英同盟、夜打曾我、彫刻師の夢、途中にて帰候。

発信 沼津姉小路様え文と小包物出す。

[歌舞伎茶や](#)([歌舞伎茶屋](#))

*[歌舞伎座](#)([歌舞伎座](#))

*せん度(先途)

*[サンラン](#)([燦](#))

爛) *第(ママ)

二月二十五日 庚子 日曜 曇。

はしめて空晴わたりたり。牛込迄散歩して観世かつの病を問ふ。大炊氏を訪て帰。また夕景より空くもり出したり。

二月二十六日 辛丑 月曜 晴。

コンノツト殿下、東京市民より招待、日比谷公園に祝意を表する為、臨時休業半日。五年生送別の為、鎌倉行、明廿七日と治定して、弁当其外準備する。午下天気くもり出したり。空模様あし。けれ共、生徒中々聞入す、終に明日と決す。

二月二十七日 壬寅 火曜 雪。

朝三時起してこしらへする。愈出来上りたる比、四時頃より雪降り出して、本日はやめに相成たり。残念かきりなし。

受信 天津吉田辰枝。

*こしらへ(拵へ)

二月二十八日 癸卯 水曜 雨、後晴。

課業例の如し。来客、大草茂子。

受信 沼津良子様より。

(三月)

三月一日 甲辰 木曜 晴。

課業例の如し。

三月二日 乙巳 金曜 晴朗。

四時起。五時半出門。予をはじめ五年生廿二人連にて電車にて土橋着。通学五年十人も同しく着。七時四十五分汽車二等買切にて、鎌倉行。天気ハ晴わたり、一同喜悦限りなし。汽車中の

楽しみ、直ニ鎌倉小町園に着。暫時休憩の間なく、八幡宮、大塔宮え拝詣ニ行。予は長谷閑院宮御別邸に詣し、御子様方伺ひて、午後海岸に成らせられる様御約束申上て、小町園に帰る。同園にて一同撮影する。昼、各自の弁当を喫して、又海岸ニ行。宮殿下も成らせられ、一同拝謁する。五時十一分の汽車にて帰る。

三月三日 丙午 土曜 約束 帝国教育会にて四日、川原操子、清藤子歓迎会。
(コノ日、記事ナシ)

三月四日 丁未 日曜
教育会出席の筈、風邪に付断る。

三月五日 戊申 月曜 曇。夜通し雨降りしきる。
昨夜より風邪にて臥。来客、井上頼国、松岡とみ子、松井氏。泰、鶴子、大森津田氏え行、七時頃帰。

受信 大坂今幾多氏。

三月六日 己酉 火曜 晴。
(コノ日、記事ナシ)

三月七日 庚戌 水曜 晴。
本日より画の試験ニかゝる。来客、岩倉梭子、谷竜蔵、鎌倉佐竹音次郎。

三月八日 辛亥 木曜 晴。
課業例の如し。来客、浦四三子、此度支那行ニ付御暇乞に来る。

三月九日 壬子 金曜 晴。58(度)。はしめて暖を覚ゆ。月清光。
課業例の如し。来客、石山基陽。発信、鶴山保勝会え小絹本僊禽獸瑞之図。
発信 房州重たけえ。小菊典侍様え。大草茂子え。浦氏え餞別す。

*重たけ(重威)

三月十日 癸丑 土曜 晴。

泉会、午下。石川安治郎氏講演アリ。

三月十一日 甲寅 日曜 晴。午下一時頃より雨になる。

朝、散歩して帰。小石川戦死者追弔会、伝通院にて執行。

三月十二日 乙卯 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、三条奥方、千代子様、篤子様、尾崎八重子。午下五時より新橋二行。浦太郎、四三子支那行二付、送別に行。六時発車、見送人沢山也。済て帰。

三月十三日 丙辰 火曜 晴。

朝、散歩して帰。本今朝七時長尾収一凱旋二付、品川え愛治郎出向ル。

受信 浦太郎。

三月十四日 丁巳 水曜 晴。

課業例の如し。来客、志賀鉄千代。日本新聞社員来。六千号和歌、廿二日迄。

三月十五日 戊午 木曜 晴。

課業例の如し。午下三時半、志賀氏講演アリ。来客、羽仁もと子。

発信 鎌倉閑院様え御菓子小包出す。

三月十六日 己未 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

三月十七日 庚申 土曜 晴。

朝、散歩して牛天神に参詣して帰。来客、長尾氏、石山基陽。四年賑にて戦争はなしに時を移す。祝酒を饗す。夜八時帰られる。

受信 三島大草茂女より羽二重の事申来る。

*四年賑(四年振)

三月十八日 辛酉 日曜 晴。

来客、北埼玉松岡半六、樋口氏同道、娘入学を願ふ。午下、予、正子と同しく新宿石山子に行、長尾を訪ふ。同氏之凱旋を祝する為、尺五堅物絹本松樹延年之図を贈る。ゆる／＼談話して御合のもの饗せられる。已而帰。日晡、津田夫婦来る。栄子も愈妊娠之趣、五ヶ月位と云ふ。実に嬉しさ限りなし。

三月十九日 壬戌 月曜 晴。65(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

三月二十日 癸亥 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。訃音、京都峰孟親十八日死去。

受信 三井三郎次郎。

三月二十一日 甲子 水曜 曇。約束 増田氏行。

朝十時頃より車にて増田氏大師会に行。応挙館にて、名幅書画、世の珍品なり。其次に大師の像安置しアリ。庭園中種々なる趣向の茶室アリ。空も晴れ渡りて(コノ文、以下記述ナシ)。二時帰宅。宮原六之介、浦雪子、石川氏細君。

三月二十二日 乙丑 木曜 曇。雪散る。午下又晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。

三月二十三日 丙寅 金曜 曇。午下晴。

課業例の如し。来客、赤松澄子。

発信 京都峰氏、書及香奠二円。万里直房氏え小包物。

(三月二十四日、二十六日、記載ナシ)

三月二十七日 庚午 火曜 曇。夜、大雨降つゝく。
(コノ日、記事ナシ)

三月二十八日 辛未 水曜 晴朗。

朝よりすへて準備よく斉ひ、午下一時式場参列。識員、生徒一同君か代、畢而勅語奉読、講哥、畢而校長訓辞、証証授与、其外式すへて相済。卒業生撮影済て、一教場にて御すもし菓子の饗応。四時無事済。来客、石本後室。

発信 三島大草氏え小包にて羽二重出す。

*識員(職員) *講哥(校哥) *証証(証書)

三月二十九日 壬申 木曜 曇。

朝、閑院宮邸に詣し、君様に拝謁。姫宮殿下四月より御通学御頼みあらせられる。御二度戴て帰。また酒井伯を訪問す。御不在にて帰。来客、鳥尾智世子。

三月三十日 癸酉 金曜 雨。約束 午下四時より新宿長尾氏招待。

来客、若山久子母、末子母、千葉人某馬場善兵衛妻、入塾願来る、山形きく、仁科駒、志賀県末子母、宮田氏。午下四時、予、愛治郎、正子と同じく新宿石山子に行。空晴わたり気色春めきたり。長尾氏の催しにて、坐敷各国国旗のかさり付賑はしく、五時同時に大炊家政夫婦。姉小路夫婦、師崎氏十二人、けふハ長尾氏無事凱旋の祝にて鄭重なる饗応也。皆々面白く盛会也。予等ハ八時過帰。

*志賀県(滋賀県) *師崎氏(師前氏)

三月三十一日 甲戌 土曜 晴。

早起。散歩して帰。午下、植物園遊歩して帰。来客、石山基陽。
発信 東様。三島大草氏。東斎藤え小包二。

(四月)

四月一日 乙亥 日曜 晴。
朝、墓参して帰。

四月二日 丙子 月曜 晴。雨、又晴。

朝九時出門。予、鶴子と同じく大森津田氏を訪ふ。栄子出迎へる。移転後始めて行。新築奇麗にて二階立ち、眺望もよく、空気ハ極めて新鮮心持よく、やかて昼飯済て一時頃より三人連にて近方逍遙して、児島氏を訪ふ。辰馬愛子、西之宮より来られ居て大ぬに喜び、早速座敷え通して種々物語、其内御合のものなど饗せられて、つゝ三時過より暇を告て、愛子と同じく謝的場に行。土筆沢山にて匆籠に満て愛子等と別を告て津田え帰る。夜一泊。此時、弘視帰来。夜、月光。桜花始めて開。

*二階立ち(二階建ち) *近方(近傍) *謝的場(射的場) *匆(忽)

四月三日 丁丑 火曜 晴。

神武天皇祭。朝、近方逍遙して帰。実に快と云へし。十一時の汽車にて帰、時十二時也。来客、田口静子、伊藤政野父と、吉田吉子父と、来栖貞子妹福子と。園中、桜花三分通咲出せり。受信 三島大草氏、羽二重請取書来。

*近方(近傍)

四月四日 戊寅 水曜 晴。約束 田村氏紡績会社廿年祭、深川行。

早起。江戸川の花を見る。三分位開きたり。午下早々約の如く、予、桃子同道にて深川紡績会社二行。実に広大なる工場の装飾至れり尽せり。あらゆるの余興に、茶店には芸妓の接たいに、又三字より演劇場も殊に広く、長唄、ヒヤノ、ハイヲリン合奏勸進帳、大森彦七 一幕、望月、畢而食堂開き、是またさしにも広き場所に実に奇麗結構尽されたり。日暮帰。夜、月清く花又明なり。

*あらゆる(の)(ママ) *接たい(接待) *ヒヤノ(ピヤノ)

*ハイヲリン(バイヲリン)

四月五日 己卯 木曜 晴。

早起。大学、中学の花を見て帰。新入生、先月より通学。寄宿満員謝絶のみに、ほとんど困し

はてたり。新、百廿人余に及ぶ。来客、斎藤仁子、加藤幸子母、今井千枝、中井敬所、富永発寂。新入の父兄には不逢。園中桜花満開。夜、月よし。

*富永発寂(富永発叔)

四月六日 庚辰 金曜 晴。

開校。授業始。新入生一百人也。実に未曾有の繁忙。入学志願者の多き、先月より三年二年満員にて、断にのみかゝりきり、入学生百三十人を切としたり。閑院宮姫宮御三方、電車にて成らせられる。夜、予、桃子、鶴子と東台に行。桜花爛熳たるに月満々たり。是をや極楽世界と云なるへし。風もなく長閑き空にて花下に息ひて、立も得やらぬ花を賞したり。九時帰。

四月七日 辛巳 土曜 晴。

授業始をなす。来客、来栖庄兵衛、横川氏細君、木村文子 母と同道御礼に来る。午下二時頃より、予、正子と植物園に花を見る。実に世の外なる心地したり。毎日々花見にいそかし。

四月八日 壬午 日曜 晴。

朝五時より江戸川の花をみて、外堀電車にて所々の花見つゝ一周して帰。又直に牛込石本氏え行。皆不在にて不逢而帰。桃子、菊江、塾生一同拉して、朝五時より東台の花見三行而帰。来客、来栖貞子、三村細君、横浜石川氏細君、浅田又七孫女及其母も同道にて浅子入塾す、柳谷かん、川村重太郎。

四月九日 癸未 月曜 雨。

授業例の如し。

四月十日 甲申 火曜 雨。

朝八時より閑院宮に詣し御稽古申上て帰。来客、井上君子。

四月十一日 乙酉 水曜 晴。

授業例の如し。来客、辰馬愛子、西園寺細君、横浜原安子子供等四人と清女と来、春子入門願出る、津久居彦七。

四月十二日 丙戌 木曜 晴。

課業例の如し。午下二時より堀田家二行、五時帰。来客、万里通房伯。
受信 訃音、林忠正十日死去、同十五日葬送谷中斎場。

四月十三日 丁亥 金曜 晴。

課業例の如し。来客、兼松細君。

四月十四日 戊子 土曜 晴。

午下一時より泉会を開く。会員六十九名。講師村上專精之講話、面白く聞く。五時全畢。

四月十五日 己丑 日曜 晴。

午前より田村氏を訪て、昼飯の饗に逢而帰。愛治郎、林忠正氏之葬送二付会葬す。

四月十六日 庚寅 月曜 雨。

課業例の如し。

四月十七日 辛卯 火曜 晴、後雨。夜、雨甚し。

本日ハ旭花様、如約午下一時過御出にて大学植物園同行之筈、空模様あしくなり雨降雷鳴して遂に行事を得ず。五時迄閑談して御帰りに成る。

受信 房州重たけより。三島大草氏より金三拾壱円持参ス。

*重たけ(重威)

四月十八日 壬辰 水曜 晴。

課業例の如し。来客、横浜浅田権四郎、物集数子、小橋秀子。夜、書写。

四月十九日 癸巳 木曜 晴。

課業例の如し。志賀氏講演アリ。夜、書写。

四月二十日 甲午 金曜 晴。

昨十九日米国桑港に大地震起れり。同市街ハ潰倒す。同時に所々大火災起れり。課業例の如し。午下二時より閑院宮邸に詣し、御息所に拝謁して、わか校友会に御台臨を願ふ。暫時御話し申上て去る。帰路江戸川の八重桜を觀て帰。浜離宮御觀桜会、格別の天晴朗、風なく長閑なり。夜、書写ス。

四月二十一日 乙未 土曜 晴。

課業畢る。午下青山山川村氏に行。皆不在にて直に帰。帰途、志賀氏を訪ふ。暫時談して木挽町林氏を訪ふ。忠正氏の弔詞を伸ふ。里子と種々物語りして帰。

四月二十二日 丙申 日曜 晴。

朝、墓參して帰。終日揮毫ものする。来客、尾越操子。夜九時頃、神田猿樂町火。

四月二十三日 丁酉 月曜 陰雨不定。

課業如例。来客、青山彫刻家。

四月二十四日 戊戌 火曜 晴。

課業例の如し。夜、書写。来客、牧野氏。夕六時頃、内幸町火。

四月二十五日 己亥 水曜 晴。

当校友会総会。天最晴朗あんしけなし。午前十一時塾生一同を拉して後樂園に至る。此園庭広く、青葉若葉の陰に受附及物品預り所、模擬店、あま酒、しる粉、すし、栗餅、そは、御てんや等、閑楽亭前に大立食所あり。裝飾各国国旗ヲ掲ゲ、正面に式場を設け、落語、手品、及北村氏露宮の夢と勸進帳也。二時頃には会員来、会者四百足らず。駒女、扇吉の飴うり大当り。実に盛会也。午下五時開散す。

*あんしけ(案じ気) *そは(蕎麦) *御てんや(おでん屋) *飴うり(飴売り)

四月二十六日 庚子 木曜 陰雨不定。

午前十一時より、予、桃子、菊江と同道にて偕行社に行、包物手伝する。★(立十青) 国神社

にて勅祭の節、遺族に賜るへき菓子数九万袋出来す。午下三時帰。来客、横浜原氏使小池清女来。廿九日三谷にて園遊会執行二付、招待せらる。

四月二十七日 辛丑 金曜 雨。

課業例の如し。

四月二十八日 壬寅 土曜 雨。

(コノ日、記事ナシ)

四月二十九日 癸卯 日曜 晴朗。約束 原氏園遊会、午前九時汽車行。

朝、予、桃子、鶴子と同じく新橋二行。小池氏来。外に中学校長及先生方も三人来。八時五十分汽車にて三ノ谷二行。九時半開園、種々の催し、余興も沢山、殊に小向の梅林を此別荘の左に移されて公園の趣珍らし。種々興を尽して、五時の汽車にて帰。

四月三十日 甲辰 月曜 大観兵式。晴朗。

早起。散歩して帰。愛治郎、大観兵式に参列す。わし田氏、予の代理にて青山式場に参る。空前の大典、曠古の大捷、肇国以来稀に見る所也。

*わし田氏(鷺田氏)

(五月)

五月一日 乙巳 火曜 陰雨不定。

朝、車をはせて宮城前大広場に陳列の戦利兵器を見る。大口径の巨砲、野砲、機関砲、薬莖は積て丘を成し、交叉せる小銃は林の如し。見渡しかたき迄弾薬車、輜重車を並へて、其外剣の垣ねを成し、此戦利の夥しき、此壮快をみるに付ても、兵士の誠、幾多の生命を費したるや、忠勇武烈を感じ、只々涙にむせひたり。実に日本国民たる者、是も見すんは有へからず。それより馬場先門を通す。実に宏大。東京市よりの建たる凱旋道路、奉祝門を見る。是又盛也と云へし。日比谷公園の擲躑を見て、★(立十青) 国神社の光景をみて、十一時帰。

*擲躑(躑躑)

五月二日 丙午 水曜 雨。

課業例の如し。来客、加藤八重子 退校ニ付姉同道す、万里君子。泰、午下六時奈良え出發す。

五月三日 丁未 木曜 雨。

大勅祭ニ付休業ス。★(立十青) 国神社え両陛下下行幸啓御参拝あらせられる。

五月四日 戊申 金曜 晴。

課業例の如し。原春子入学す。来客、万里君子、民子、[通よし](#)、一泊す。

*通よし(通義)

五月五日 己酉 土曜 晴。

東京市歓迎会ニ付休業。朝七時より塾生連て戦利品參觀させる。十時帰校す。来客、小山仲子、退校御礼に来る。

五月六日 庚戌 日曜 晴。

朝七時より牛ヶ淵愛国婦人会本部にて遺族接待する。本社も本部も遺族え贈り物品切にて昼後早々帰宅す。来客、久米民之輔、万千代を連れて来る。良暫して帰。

五月七日 辛亥 月曜 晴。

課業例の如し。来客、岩浪稻子。此夕、長尾氏来、十時頃去。

五月八日 壬子 火曜 晴。

朝十時より高樹町に行。帰途、新宿石山氏を訪て帰。受信 斎藤善子より小包着。

五月九日 癸丑 水曜 雨。

課業例の如し。

五月十日 甲寅 木曜 晴。

課業例の如し。

五月十一日 乙卯 金曜 晴。

課業例の如し。午下三時より宮城姉小路良子殿を訪ふ。久々にて種々御咄し共にて六時退出す。

五月十二日 丙辰 土曜 晴。

課業例の如し。午下泉会。白鳥文学博士演舌アリ。来客、山田君子母。

五月十三日 丁巳 日曜 雨。 約束 代々木久米氏行。

朝十時より、予、愛治郎、桃子、鶴子四人連にて雨を冒して代々木久米氏に行。擲躑岡控邸能舞台にて、始、三井守之助春栄、久米道成寺、無難に出来たり。古市氏の望月、外に囃子舞四番等にて五時済て帰。此園中の広き驚べし。石山基威、米国帰朝。

*擲躑岡(躑躑岡)

五月十四日 戊午 月曜 晴。

課業例の如し。朝、書写す。

五月十五日 己未 火曜 晴。 約束 粕壁田中氏。

朝七時出門。予、室母と十四人連にて、両国より八時四十分汽車にて粕壁に着。田中氏及幸子、作子、田村氏より、くに子、よし子、其外下男等も来りて、直に車を連ねて田中氏に行。家人の歓ひ一方ならず。種々もてなしにて、主人の願ひにて絹本用意も有て席画数葉する。昼餐。

酒造蔵を見る。醸造高三千余石と云。二時過る頃より牛島の藤花をみる。廿年来見ざる。実に藤見る人、及此園も大ゐに盛を極めたり。盛は三日間過たり。花房長きは五尺位なり。此園主より願ひに、又席画する。三時過、田村氏より迎ひも来て、一同田村氏に行。家も新築にて美麗に心地よし。又主人の願ひにて絹本書画帖もの数葉席上する。種々なる酒肴、夕飯の饗応にて、遂七時十分の汽車にて帰。来客、石山基威十年賑りにて来る。不在にて不逢。

*十年賑り(十年賑り)

五月十六日 庚申 水曜 晴。
課業例の如し。来客、館野栄吉。

五月十七日 辛酉 木曜 晴、風。
課業例の如し。午下三時より麻布山田伯二行。梅子近日結婚の式挙らるゝ二付、其悦を伸。御母堂、梅子にも逢て、祝酒の饗応あり。已而帰。閑院宮様え参りて、君様と暫時御談話申上て去ル。六時帰。志賀氏講演あり。夜、書写す。

五月十八日 壬戌 金曜 晴。
課業例の如し。来客、原安、春子、良太郎、小池清、田中源太郎、田村新造、石山基威十年振の談話にて十時過迄。

五月十九日 癸亥 土曜 晴。 約束 岩佐純金婚式、上野精養軒。
課業例の如し。午下早々車にて、上野美術協会ニテ陳列物品をみる。畢而精養軒岩佐純氏の金婚式場に列す。園遊会にて広庭に大テントを張を見所とす。其前に舞台を造り、始、二人袴狂言、寺田高砂謡、鏡獅子、浦島役者勤之、芸者の手踊。畢而立食にて済。五時帰。

五月二十日 甲子 日曜 晴。
朝八時より新宿御苑に参る。愛国婦人会第五回総会。皇后陛下行啓。總裁閑院宮妃殿、其外有栖川妃、東伏見妃、伏見若宮妃、梨本妃御台臨。会員総数二万人と云。石山家ニ寄、**休啓**して六時帰。政子、桃子も同様。

*休啓（休憩）
五月二十一日 乙丑 月曜 曇。夕方雨降り出したり。
課業如例。来客、田中源太郎妻。明日遠足会揭示する。生徒悦ひ一方ならず。

五月二十二日 丙寅 火曜 晴。
朝七時半、生徒一同参集。直に飯田町八時五十分汽車に乗して新宿着。夫より徒歩して代々木

久米氏控邸に行。天曇晴不定、折々風もそよ吹て、運動会には至極適當なる好天気。園中之広き、生徒思ひ／＼に遊戯して、自弁を開き、おもふさまたうへ尽したり。十二時過、閑院宮姫宮殿下御三方も成らせられ、御機嫌よく御遊ひに相成たり。一同、新宿五時半の汽車にて帰。予は車にて新橋に至り、閑院宮両殿下京都御発車六時三十分御見立申上て帰。

*たうへ尽したり(食べ尽したり)

五月二十三日 丁卯 水曜 晴。 約束 毛利様有約。

臨時休業。午下一時より高輪毛利公爵を訪ふ。安子様御方にて種々御話、御合もの戴て、それより此日ハ丹羽花子様も同しく、御本殿にて美佐子様より昔し語りに御夕餐を饗せられ、夜に入て帰。来客、島田柳子父鉄蔵、御礼に来る。

五月二十四日 戊辰 木曜 晴。

早起。散歩して帰。書写。課業例の如し。来客、石山基威。

五月二十五日 己巳 金曜 晴。

課業例の如し。来客、原春子。

五月二十六日 庚午 土曜 晴、風。

課業例の如し。

五月二十七日 辛未 日曜 雨。 約束 原氏より。

書写す。予、桃子と同しく朝十時半より歌舞伎二行。猿屋に休息す。日本鉄道満期二付、株主招待。能準備行届たり。始、奈良東大寺炎上平重衡物語、勸進帳、及助六、魚屋茶碗。助六中途ニて帰。夜十一時半也。

*歌舞伎(歌舞伎)

五月二十八日 壬申 月曜 晴。 81(度)。

皇后宮地久節二付休業。終日揮毫。書写。

五月二十九日 癸酉 火曜 晴。
書写。

五月三十日 甲戌 水曜 晴。

課業例の如し。畢而閑院宮妃殿下石川県より御還御ニ付詣し、両殿下に拝謁す。愛国婦人及赤十字支部總會、実に静肅に盛を究めたるよし、至れり尽せりと仰せらる。

*究めたる(極めたる)

五月三十一日 乙亥 木曜 晴。

課業例の如し。書写法華経六卷畢。来客、山田梅子、青山泰石。

(六月)

六月一日 丙子 金曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。来客、女子成功社岩本無縫。

六月二日 丁丑 土曜 晴。

朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。

六月三日 戊寅 日曜 晴。約束 横浜茂木氏。

朝、予、桃子と同じく七時出門。新橋二行。岡崎忠子さまも先在。八時廿分大急行にて横浜二行。停車場茂木氏迎ひ元子来られ、車にて直に能楽堂二着。橋岡の翁開きにて終日面白く見物して五時済、茂木氏え行。夕餐を応せられ、宴中、観世清廉、清之、橋岡、喜多、松風、砧の素謡、其外一管二調等にて面白く、夜十時十分の汽車にて帰。重威房州より帰来。

六月四日 己卯 月曜 陰。

朝、雨已而晴。課業例の如し。夜、雨甚し。午下四時頃より五軒町に重威を訪ふ。夕景帰。

六月五日 庚辰 火曜 晴。
来客、重威、石山基威、岡崎忠子。

六月六日 辛巳 水曜 晴。

課業例の如し。朝、研究生のみ連て植物園に行。所々写生して帰。来客、女子時事新聞記者。

六月七日 壬午 木曜 晴。

課業例の如し。

六月八日 癸未 金曜 晴。

課業例の如し。来客、原春子。

六月九日 甲申 土曜 晴。

課業例の如し。午下泉会。講話、女学生の監督。壺井九馬三博士、始て面会す。私の家内も当校の御世話に成りましたと云。内村恭子也。実に珍らしと云へし。

*壺井九馬三博士(坪井九馬三博士)

六月十日 乙酉 日曜 雨。

本日は父重教の満十七回忌。十五日を引上て光円寺にて仏事営む。午前十時より読経、十一時畢。直に帰る。参詣者、姉小路公正、良子様代理豊女、石山基威、重たけ、玉枝、きく、北村、菊枝、挙家一同、午餐を饗す。三時、或ハ五時頃皆帰。津田二人、石山すま子不参。

*重教(重敬) *重たけ(重威)

六月十一日 丙戌 月曜 晴。

課業例の如し。朝、予、正子と同じく観戦鉄道のパノラマ見物す。汽車の通りにて珍らし。昼頃帰。

六月十二日 丁亥 火曜 入梅。晴。夜小雨、已而晴。

朝、書写す。来客、重たけ、基たけ。

*重たけ(重威) *基たけ(基威)

六月十三日 戊子 水曜 晴。

朝、書写す。課業例の如し。玄関前樹木、松、檜、かなめ、達磨ひば、譲り葉、八ッ手、其外
数樹、堀田家、沢家え贈る。

*かなめ(要) *達磨ひば(達磨檜葉)

六月十四日 己丑 木曜 雨。

課業例の如し。

六月十五日 庚寅 金曜 晴。

課業例の如し。原春子来る。津田弘視。

六月十六日 辛卯 土曜 晴。

朝、散歩して五軒町訪て帰。課業例の如し。訃音、一年生小林駒子今朝死。

六月十七日 壬辰 日曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、重威。

六月十八日 癸巳 月曜 細雨。

課業例の如し。夜に入て雨甚し。

六月十九日 甲午 火曜 雨。

昨夜より大雨。大豪雨、金の如し、所々水かれやかましき折。書写。

六月二十日 乙未 水曜 陰晴不定。

朝、散歩して帰。午下河津氏え行。白山ニは不居。下瀬氏を訪。喜代子に面談して川津氏の転
地先を問ふ。小石川江戸川町十七番地と云。それより河津氏を訪ふ。昨日結婚式を挙げられたる
趣にて、新夫婦にも御母敏子さまニも逢て悦を伸て帰。帰途、五軒町に重威を訪て帰。河津

氏え御祝もの白縮緬一反。

六月二十一日 丙申 木曜 雨。

課業例の如し。重威、帰房のよし。

六月二十二日 丁酉 金曜 夏至。五月朔日。年中の日の永き日。雨。 約束 午下四時より

閑院宮御招。

午下四時、閑院宮様え詣し、御客三条、毛利、酒井、川はた、山尾、花房、鍋島。御用掛、御座定りて、はしめ、三遊亭園三落語三席、北村季晴露宮の夢、勸進帳。御会食、畢而長唄、藤間踊等にて御成会也。十時過去る。

*川はた(河鱸) *三遊亭園三(三遊亭円三) *御成会(御盛会)

六月二十三日 戊戌 土曜 曇。 約束 午下三時より阿津、神田氏、華族会館。

午下閑院宮え詣し昨日の御礼申上る。志賀氏を訪ふ。華族会館二行。婦人席も大てい集まられたり。やかて食堂開らせて井上伯挨拶、河津氏の御礼にて、四時半頃畢而帰。正子、新宿え行、電車にて軽我して帰。格別にもなくて大幸也。基威同道也。早苗此夜より発熱。

*阿津(河津) *軽我(怪我)

六月二十四日 己亥 日曜 朝雨、曇。 約束 午後五時、筭町山田氏。

午下四時半出門。鷺田菊江と同じく山田伯邸二行。山田伯結婚の披露宴会にて客は外に山根正次、梅田氏と也。先、英夫伯と初対面の挨拶して、後室梅子と也。種々珍らしき談話等にて、日本食、八時半頃畢而、十時帰。

六月二十五日 庚子 月曜 雨。

課業例の如し。早苗いまた熱上る。九度五部。

*九度五部(九度五分)

六月二十六日 辛丑 火曜 晴。

課業例の如し。

六月二十七日 壬寅 水曜 晴。
課業例の如し。

六月二十八日 癸卯 木曜 晴。
朝、散歩して帰。来客、太田房子及母、退校御礼に来る。石山吉子、大炊御門晨子、病気を訪ふ。

六月二十九日 甲辰 金曜 晴、後雨。夜雨甚し。
早起。散歩して帰。課業例の如し。原春子、三上菊来る。来客、安田照子より早苗の病氣二付、小児医吉松氏より関屋氏来る。全く腸熱のみ也と云。外に小児医渡辺氏も来る。来客、石山すま子。

六月三十日 乙巳 土曜 雨。
雨中散歩して帰。課業例の如し。早苗、医師のすゝめにより駿ヶ台瀬川小児病院に入院させる。正子付添。志賀氏樺太より一絶を贈らる。

形勝三秦自古今 関河百二宋郁金 欲留銅柱銘河字 草莽書生感激深
歴山客中書感 遥寄跡見女先生

受信 志賀氏。

発信 樺太志賀氏、返書。

*駿ヶ台(駿河台)

(七月)

七月一日 丙午 日曜 陰。
早起。墓参して帰。来客、永峰静子母、基陽。早苗容体ハ熱氣同し事、下らぬよし也。

七月二日 丁未 月曜 朝雨、後晴。

早起。散歩して帰。課業例の如し。

七月三日 戊申 火曜 晴。

早起。散歩して帰。課業如例。

受信 谷山たに子より桜桃着。

七月四日 己酉 水曜 晴。

早起。散歩して帰る。課業例の如し。来客、石山すま子。

七月五日 庚戌 木曜 陰。

早起。散歩して帰。課業例の如し。

七月六日 辛亥 金曜 雨。

早起。雨中散歩して帰。課業例の如し。来客、石山吉子、閑院宮御使松井氏。

七月七日 壬子 土曜 陰。

早起。散歩して帰。課業例の如し。来客、児玉縫子。

七月八日 癸丑 日曜 晴、夜雨。

朝十時より、予、桃子と同じく高樹町に行て帰。来客、岡崎国良子。

七月九日 甲寅 月曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、石山基威。

七月十日 乙卯 火曜 晴。

早起。散歩して帰。

七月十一日 丙辰 水曜 晴。

早起。散歩して帰。課業例の如し。来客、石川たか子母、原安子、堀田伴子。本日建築水づも

り日。仮玄関を立ツ。露台取はづし樹木ハ移しかへる。

*水づもり日(水盛日)

七月十二日 丁巳 木曜 晴后雨。

早起。散歩して帰。課業例の如し。

七月十三日 戊午 金曜 晴雨不定。

早起。散歩して帰。課業例の如し。来客、岩浪稻子。

七月十四日 己未 土曜 雨。

早起。散歩して帰。課業例の如し。泉会、正午より雨中続々来集す。四十人。講師島田氏。余は二時半より山口十八、縫子と結婚披露会、華族会館二行。来会者も大せい。寺内陸軍大臣御夫婦媒酌。余興も始まり、畢而食堂開かけ、十分饗応に喜ひを尽して帰。帰途、瀬川病院に早苗訪ふ。追々快方なるよし、安心して帰。此日の雨は実にすましくおそろしき様也。

七月十五日 庚申 日曜 雨。

早起。散歩して帰。やはり雨にて、午下二時頃より晴模様にて外出。北白川宮御殿に詣し、富君様御はしめ恒久殿下、其外七殿下拝謁仰付られ、しはらく御咄し申上て去る。閑院宮御殿え詣して、両殿下をはしめ御子様方にも拝謁致して帰。点灯頃也。五軒町重たけを訪て帰。来客、山口十八、縫子。

*重たけ(重威)

七月十六日 辛酉 月曜 晴。空全く快晴。

早起。散歩して帰。課業例の如し。本日は天候全晴、快不可言。来客、重たけ夫婦、いく子。

*重たけ夫婦(重威夫婦)

七月十七日 壬戌 火曜 晴。83(度)。

早起。散歩して帰。

七月十八日 癸亥 水曜 晴。

早起。散歩して帰。課業例の如し。来客、**重たけ**、いく子。

*重たけ(重威)

七月十九日 甲子 木曜 晴。85(度)。

早起。散歩して帰。課業例の如し。来客、津田弘視。

七月二十日 乙丑 金曜 晴。93(度)。

早起。散歩して帰。課業例の如し。午下五時頃より塾生送別会。夕食、取肴物と**氷しる子**。余興、活人画八番、仮装遊技。十二時畢。

*氷しる子(氷しる粉)

七月二十一日 丙寅 土曜 午前一時、入暑。晴。93(度)。

早起。散歩して帰。**課業例**如例。畢而体操場に生徒を集め校長の送別の辞あり。畢而解散す。

*課業(例(衍))如例

七月二十二日 丁卯 日曜 晴。93(度)。

早起。散歩して帰。午前十時より一番町三井氏之行。歌仙会。予、藤戸を謡ふ。五時、三十六番済。夕飯済て帰。

七月二十三日 戊辰 月曜 晴。93(度)。

早起。散歩して帰。午下微恙、臥。

七月二十四日 己巳 火曜 晴。夜雨。90(度)。

終日臥。来客、岡本時、三輪うた。

七月二十五日 庚午 水曜 雨晴不定。

病に臥。来客、大炊はや子、江副静子、石山すま子。

七月二十六日 辛未 木曜 晴、雨。

早起。散歩して帰。朝十時より児玉子邸に弔詞を伸、御暇乞をする。安眠の如く也。御夫人松子様と暫時御病気の御模様など伺て帰。珍らしく児玉勇子にも逢て帰。本日上棟式なれと雨にてはかとらす延引。此帰途、新宿石山氏より五軒町及姉伯暑中ヲ訪テ帰。此夜十時頃より下痢を始め、二時頃桃子を起して看護(さ)する。晝迄十回。

七月二十七日 壬申 金曜 雨晴不定。

臥蓐す。天晴雨不定。雨中上棟式執行す。職人九十九人也。

七月二十八日 癸酉 土曜 細雨。

臥蓐す。

七月二十九日 甲戌 日曜 晴。86(度)。

予、平臥す。来客、岡崎忠子、**重たけ**。本日より**講堂楼下**取はづし、奥え不通になる。

***重たけ**(重威) *講堂楼下(講堂廊下)

七月三十日 乙亥 月曜 晴。

いまた蓐中寐たり起たり也。来客、俵松子。

七月三十一日 丙子 火曜 晴。92(度)。

病快復。来客、高島要子、井上きみ子妹、**重たけ**、基陽。夕月清光。

発信 暑中見舞八軒え出す。

***重たけ**(重威)

(八月)

八月一日 丁丑 水曜 晴。87(度)。

早起。室内掃除。建築場**点見す**。本日炊事場棟上也。

*点見す(点検す)

八月二日 戊寅 木曜 92(度)。

朝、夕立。雨、已而晴。熱如焼。終日揮毫ものす。

八月三日 己卯 金曜 晴。93(度)。

早起。四時散歩して帰。病気はしめて書写す。来客、仁科駒、裏松千代子。夜月如鏡。終夜むし暑くて寐につかず、二時迄。

八月四日 庚辰 土曜 月食、雨にて無功。93(度)。

早起。散歩して帰。細雨、又晴、炎熱如焼。来客、[重たけ](#)。

発信 十八軒え暑中見舞出す。

*重たけ(重威)

八月五日 辛巳 日曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、津田弘視、弘正。

八月六日 壬午 月曜 陰。

朝、散歩して帰。来客、[少女世界諸者](#)海賀篤丸、加藤幸子、橋本縫、同艶子、[重たけ](#)。

*少女世界諸者(少女世界記者) *重たけ(重威)

八月七日 癸未 火曜 晴。

揮毫ものす。鶴子病気。

八月八日 甲申 水曜 94(度)。

早起。散歩して帰。天晴朗。晴暑。来客、津田弘視、今城友子。今年第一炎熱九十四度。実ニ堪かたくて諸職人一同え氷水を遣る。大悦也。

八月九日 乙酉 木曜 晴、夜雨。

朝、散歩して帰。涼気清趣。書写す如例。来客、海賀篤丸。

八月十日 丙戌 金曜 晴。

早起。七時半より、予、鷺田と同じく大森二行。此時小雨さつと降て晴。津田氏え到る。よし子、殊の外大元氣にて先々安心。楼上の空氣、海の風、新鮮心地よし。昼飯後、午睡して四時十八分汽車にて帰。帰途病院に行。早苗も元氣附て近日退院する筈也。日晡帰。

八月十一日 丁亥 土曜 晴。

朝、散歩して帰。書写。来客、津久の糸子、其母と御札に来る。

受信 廿二軒。

発信 八軒え書信す。

*津久の糸子(津久居糸子)

八月十二日 戊子 日曜 晴。

早起。五軒町を訪て帰。書写す。来客、石山基陽。

八月十三日 己丑 月曜 晴、夜雨。

早起。散歩して帰。書写す。

八月十四日 庚寅 火曜 雨。冷氣。

早起。散歩して帰。書写す。冷氣、綿入羽織を着す。早苗、愈朝八時退院す。待にまちたる日にて雨中ながらも先無事着。其悦ひ一方ならず。一同安心。

八月十五日 辛卯 水曜 晴。冷氣。

早起。散歩して帰。書写す。来客、重たけ、姉小路、基威。六、七教場上棟式。

*重たけ(重威)

八月十六日 壬辰 木曜 晴。

早起。散歩して帰。書写す。来客、石山吉子。

八月十七日 癸巳 金曜 雨。

早起。書写す。来客、**重たけ**、公正。

*重たけ(重威)

八月十八日 甲午 土曜 晴。

早起。散歩して帰。書写す。

八月十九日 乙未 日曜 晴。91(度)。

早起。散歩して帰。法華経七卷畢。

八月二十日 丙申 月曜 晴。92(度)。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。

八月二十一日 丁酉 火曜 晴。90(度)。

早起。散歩して帰。揮毫す。

八月二十二日 戊戌 水曜 晴。92(度)。

早起。散歩して帰。来客、遠藤艶子、真岡雪子、仁科駒。

八月二十三日 己亥 木曜 晴。90(度)。

早起。散歩して五軒町訪ふ。**重たけ**病氣軽快也。暫時にして帰。来客、太田房子。

*重たけ(重威)

八月二十四日 庚子 金曜 陰。

朝八時頃より細雨降出して、午下二時頃より暴風雨となりて、東の風すさましく、職人等も仕事する所てなく、みな風雨に吹き倒さるゝ如くに帰りぬ。実におそろしく、夜に入て十時頃漸静に成たるに、洪水たちまちに表裏共非常にて床上に達したり。仕事司なそも夜三度も来りて防備す。

八月二十五日 辛丑 土曜 晴。92(度)。

早朝より水の見舞やら、所々を見る。揮毫す。此日の暑気は実に堪られぬ位也。所々水見舞の御礼出す。晡時、大森津田氏より馬車五台にて家具預ケに来る。大困雜一方ならず。塾十一号に先々詰置也。

*大困雜(大混雜)

八月二十六日 壬寅 日曜 晴。

早起。散歩して帰。来客、増田義一氏、津田弘視、弘正、岩佐亀子、基威。

八月二十七日 癸卯 月曜 晴。

早起。散歩して帰。午前九時より、予、桃子と同しく三越に買ものして、岡本氏え行、出産の祝ものする。昼餐の饗に逢て、浦島病院に栄子を訪ふ。廿五入院す。何の障りも、至極健全也。本日より法華経八卷書写にかゝる。

*健全(健全)

八月二十八日 甲辰 火曜 晴。

早起。散歩して帰。書写す。来客、大坂槿芳太郎転書多気善之輔 不在不逢、石山基威、基陽、重たけ。

*転書(添書) *重たけ(重威)

八月二十九日 乙巳 水曜 晴。

書写す。来客、愛国婦人会庶務課長大久保高明、不在不逢。

八月三十日 丙午 木曜 晴。88(度)。月清光。

早起。散歩して帰。来客、愛国婦人会大久保氏来。此度、總裁殿下東北地方愛国婦人総会に御台臨二付、従行依頼に二付、御請申上ル。

*依頼に(二(衍)一付)

八月三十一日 丁未 金曜 晴。84(度)。

早起。書写す。朝、閑院宮御殿に詣す。御息所様拝謁。此度東北地方え愛国婦人の為成らせらるゝ二付、予も従行仰せ付られたる御礼に参る。恭宮様はしめ奉而御子様かた、昨日片瀬より還御なる。久々御目通りする。十二時帰。夕景、予、桃子と同しく、五軒町に行。明日京都出發二付、暇乞に行。故姉小路公知卿贈位の御沙汰ニテ、別段京都え勅使立せらると云。実に四十余年間の思望も今こそ成就して、もはや世には望なき也。

(九月)

九月一日 戊申 土曜 83(度)。

朝細雨、已而晴。早起。墓参して姉小路寿子殿、公義殿、厳父、姉千世子の墓前に此度贈位の次第を申上る為に、石碑も動くはかりの嬉しさ、生前ならはと残念限りなく候。午下六時三十分急列車ニテ重威、公政、河辺氏上京の途につく。予、桃子、弘、新橋迄見送る。帰途浦島病院に榮子を問ふ。いまた何の沙たもなく見請る。暫時にして帰。

*沙た(沙汰)

九月二日 己酉 日曜 二百十日。雨。

朝、細雨。書写す。本日諸新聞に昨日官報の通。

姉小路公知卿贈位

姉小路公政伯先々代、故正四位下贈参議左近衛権中将姉小路公知卿ハ、先朝時代に王事に奔走し、終に文久三年五月廿一日廿五歳を以て兇刃に斃れたる人なるか、天皇陛下には卿か功勞を御追念あらせられ、特に一日左の如く位階追陞の御沙汰あり。併て京都府知事大森鍾一を策命使として京都市寺町松林院の墓前に参向仰付られたり。

故正四位下参議左近衛権中将姉小路公知、贈正二位特旨を以て位階追陞せらる。

京都府知事 大森鍾一

故正四位下姉小路公知位階追陞二付、策命使として墓前に参向被仰付。

来客、加藤幸子、其母と御礼に来る。

*大森鍾一(大森鍾一)

九月三日 庚戌 月曜 晴。

早起。散歩して帰。閑院宮御使来。来客、内海寿子。

九月四日 辛亥 火曜 晴。

朝七時半より宮城姉小路良子局ニ参る。故姉小路公知卿御贈位の恐悦申上る。当時の御咄共、陛下御厚き思召共同ひて感涙を流し候。十一時、帰途五軒町に寄て帰。午下三時前、閑院宮御殿ニ内海を連て参る。御息所拝謁仰せ付られ、御学問所、種々拝見す。内海氏今後姫宮様方之御学事之御下**教授**を仰付られる。五時帰。

*教授(教授)

九月五日 壬子 水曜 晴。

早起。散歩して帰。塾生続々帰塾す。

九月六日 癸丑 木曜 晴。

朝起。散歩して帰。授業始執行。七時迄に生徒集る者百七十九人、教員も来りて、五階級教場を定む。生徒の悦一方ならず。八時半退散。予、鶴子、弘を連て買物に行て帰。来客、石山すま子。

九月七日 甲寅 金曜 雨。

朝、散歩して帰。来客、来栖貞子、篤子、五軒町治子、幾子。

九月八日 乙卯 土曜 晴。

朝より泉会ニ付、教場すへて準備にいそかし。午下一時頃より会員集る。角田氏、元禄の文学の講話面白し。

*いそかし(忙し)

九月九日 丙辰 日曜 雨。

朝、散歩して帰。午前八時より**重たけ新橋**迄迎に行。九時着。姉小路も無事着。それより、よ

し子を浦島病院に問ふ。いまた何の沙たもなく、暫時にして帰。

*重たけ(重威) *沙た(沙汰)

九月十日 丁巳 月曜 雨。

業始執行す。教場広く美麗なるに心地よし。来客、飯島かね、重威 帰京後、策命使等、京都の土産はなしする、岡崎忠子。

九月十一日 戊午 火曜 二百廿日。終日雨。

課業例の如し。来客、岩浪稻子。小川団蔵、斎藤祐、雇を解く。

九月十二日 己未 水曜 雨。

課業一時間にして、当日は姉小路公知卿御贈位の祝日にして、藤袴典侍様も御下りにて、予等九時より参る。御神前祭典。旧知の方々を招く。沢藤子、岡崎忠子、関博直、大炊家政、石山すま子、予、愛治郎等也。其当時の事共語り合ひて、昼餐の饗応、頗る美味。午下四時頃帰。

九月十三日 庚申 木曜 雨。

課業例の如し。雨甚しく、往来今にも出水の模様二付、生徒一時間早く帰し候。其内往来水にひたす。暫時也。愛国婦人、秋田、山形え御台臨、山形地方セキリ病二付中止、十五日御発車十七日に変更、秋田のみと相成。

*セキリ病(赤痢病)

九月十四日 辛酉 金曜 曇。

はしめて雨止たれと薄曇なり。課業例の如し。来客、愛国婦人大久保、五軒町重たけ。

*重たけ(重威)

九月十五日 壬戌 土曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下より閑院宮え詣す。御息所君拜謁。酒井夏子様も御参りにて秋田総会二付御打合せも申上。此度は他人雑らす大く御安心の御沙た。御合のもの戴て退出す。来客、大久保氏、名古や。

*御沙汰(御沙汰) *名古屋(名古屋)

九月十六日 癸亥 日曜 晴。

早起。来客、**重たけ**、大久保氏。

*重たけ(重威)

九月十七日 甲子 月曜 晴。

早起。旅行用意整ひ七時出門。愛四郎、弘、鶴子、桃子送り来る。上野停車場御奉送者多く、無程総裁殿下成らせられ、午前八時五十分御発車。秋の旅路心地よく皆々**手張**取出し、日暮里、**田畑**と停車場をしるし行く。蕨の辺より停車毎二拝謁者あり。間々田より小雨降り出したり。已而晴。栃木**矢吹**にて雨降出し、三十八停車過て福島御着。実に奉迎人御旅館迄人籬を築きたり。盛大可驚。午後五時三十七分松葉館に御着。

*手張(手帳) *田畑(田端) *矢吹(ママ)

九月十八日 乙丑 火曜 晴。

午前六時廿分福島御発車。庭坂にて吾妻の不二を見る。トンネルの多き驚きたり。米沢にハ上杉御夫婦奉迎せられる。

(九月十九日〜二十三日、記載ナシ)

九月二十四日 辛未 月曜 晴。

秋季皇霊祭。祖先祭執行す。予、鶴子と同じく浦島病院二行、出生の子供を見る。胎内にて**育**分發育したるとみゆ。大きな末たのもしき児也。栄子も肥たちよく安心致したり。暫して帰命名式二付、**弘徳**と名付たる。

*育分(幾分) *弘徳(弘孝)

九月二十五日 壬申 火曜

課業始めをなす。教場見廻る。

九月二十六日 癸酉 水曜 晴。
課業例の如し。

九月二十七日 甲戌 木曜 雨。
早起。散歩して帰。課業例の如し。

九月二十八日 乙亥 金曜 雨。
早起。散歩して帰。課業例の如し。

九月二十九日 丙子 土曜 晴。

朝、五軒町に重威を問ふ。愈明三日出發治定す。課業例の如し。来客、津田氏。
発信 秋田田中貞子え帯地小包にて出す、文も。

九月三十日 丁丑 日曜 晴。

朝起。予、弘と六時前出門。重たけ、治子、幾子帰房ニ付、新橋え送別見立して、七時發車す。それより浦島病院に栄子を問ふ。小兒も追々發育も見えたる様に思はれる。暫時にして帰。夜、月清光。来客、石山すま子。弘、本日より大炊御門氏に寄宿する。

*重たけ(重威)

(十月)

十月一日 戊寅 月曜 晴。

早起。墓参して帰。来客、太田房子母。津田弘視、愈三日米国え出帆ニ付、御暇乞に来る。午餐を出す。よし子、同子供等の事を依頼す。
発信 京都木田氏え故公知君石碑文出す。

十月二日 己卯 火曜 陰、后雨。

早起。散歩して帰。来客、読売記者。訃音、佐倉吉伝右衛門死去。仲秋無月。

発信 仙台山本かねぢえ小包。弔詞、佐倉吉田氏え。原春子、三上きく子え。

*吉伝右衛門(吉田伝左衛門)

十月三日 庚辰 水曜 雨。

朝、愛四郎、正子、鶴子、桃子、新橋二行。津田弘視、十一時十分之汽車にて渡米。発車見立之人多、盛也と云。横浜信濃丸、午下二時出帆。栄子、弘孝、愛治郎之一行、浦島病院二行、兩人を迎へて帰。十六夜も無月。

十月四日 辛巳 木曜 先々晴。

課業例の如し。

十月五日 壬午 金曜 雨。

課業例の如し。午下、予、菊枝子と同じく松屋に行。弘孝の産衣詠る。晡時帰。此記事ハ明六日の誤。原春子、三上菊子、稽古始める。

十月六日 癸未 土曜 陰。

(コノ日、記事ナシ)

十月七日 甲申 日曜 晴。

天晴朗。仲秋望の無月。毎夜無月。始めて有明の月の清らなるを見る。朝、散歩して帰。来客、酒井家斎藤八百氏、大炊御門晨子、石山すま子。

十月八日 乙酉 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、予、愛治郎、鶴子と五二会に行。雑沓甚し。工業品発たつ可驚。二時間位にして帰。

*発たつ(発達)

十月九日 丙戌 火曜 晴。

朝、行樂して帰。午下、大久保石山氏を訪て、夕景帰。

*行楽(行藁)

十月十日 丁亥 水曜 陰。

朝、散歩して帰。課業例の如し。中山栄子様より御招きにより三時より出向。素謡四番を謡ふ。夕餐を喫して帰。雨降り出したり。

十月十一日 戊子 木曜 雨。

昨夜よりの雨甚し。課業例の如し。

十月十二日 己丑 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。本日、居宅上棟式、及三教場も同様上棟式執行す。

十月十三日 庚寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。泉会。小山東助氏、日本婦人典型講話、二時間余。会する者五十人。

発信 秋田財部え小包遣す。

十月十四日 辛卯 日曜 晴。

朝、散歩して五軒町大炊氏を訪て帰。

静岡跡見暉一氏より松茸着。

十月十五日 壬辰 月曜 晴。

朝、墓参して帰。本日より授業午後二時迄。

十月十六日 癸巳 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十月十七日 甲午 水曜 晴雨不定。夜大雨。

朝、散歩して帰。神嘗祭。散歩帰途、華山院正子を訪ふて帰。

十月十八日 乙未 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

受信 内田恒子より松茸着。

十月十九日 丙申 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、三輪哥子、池田禄子。

十月二十日 丁酉 土曜 晴、后雨。

朝、散歩して帰。津田弘孝宮参り二付、朝十時より菊枝いだきて氷川神社に参詣して、姉小路家、大炊御門え往て帰。晚餐洋食の饗応、津田氏より。

十月二十一日 戊戌 日曜 陰、雨。

朝、散歩して二合半坂なる雨宮氏の不二山を見て帰。来客、秋田市長大久保、大坂毎日新聞社員。

発信 芸州内田恒子え。

十月二十二日 己亥 月曜 雨。

課業畢る。午下より堀田家研究会に参し、日暮帰。

十月二十三日 庚子 火曜 雨。

終日雨降り通したり。

十月二十四日 辛丑 水曜 雨。

課業例の如し。

受信 山形県石沢健治郎。

十月二十五日 壬寅 木曜 晴朗。8 (ママ) (度)。

廿日より五日間雨甚しく降り通したり。始めて日光をみる。課業例の如し。来客、普連土女学

校より亜米利加婦人 小兒連れて来訪す、長谷川幸子母。月はしめて清し。

* 8 (ママ)

十月二十六日 癸卯 金曜 晴、夜雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、石山すま子。田口静子、本日午後四時半死去知らせあり。桃子、早速出懸る。予、課業畢而田村氏に金雄病氣を問て帰。

受信 御寺御所より栗着。

十月二十七日 甲辰 土曜 晴。

昨夜雨。朝、散歩して帰。朝、回生病院に行、田口静子弔詞を伸、暇乞して帰。午下一時より鍋島邸に行。式、足立氏え贈品、及会長感謝状朗読、足立氏送別演舌アリ。式畢而庭園にて一同撮影アリ。畢而立食。四時過帰。来客、伊藤静江。

受信 石沢氏より林檎着。

十月二十八日 乙巳 日曜 晴。

朝、散歩して酒井家二行。御庭園行樂して帰。

十月二十九日 丙午 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。閑院宮妃殿下え献上の林檎持せさし上る。此夜、月尤清し。ねられぬ。

発信 石沢尚子え書及小包物。

十月三十日 丁未 火曜 晴。後の名月、月朧なり。やゝ晴たり。

朝八時三十分急行にて、予、小池清女と同じく原氏三溪を問ふ。富太郎旅行中。安子すへて接待行届たり。けふは殊更好天氣にて、山海の風色又格別なり。昼餐済て所々散歩して、下の家に行て国华、及抱一集、光琳集を観る。又所々散歩して梅林行て、山守と云へき一屋に案内されて行。守川瑞、坐して茶を点して面白き事也。夕餐を喫して、馬車にて、七時廿七分の汽車にて帰。

受信 大坂跡見より豆着。

十月三十一日 戊申 水曜 時雨。
朝、散歩して帰。課業例の如し。

(十一月)

十一月一日 己酉 木曜 晴。月如鏡、実清光。
朝、墓参して帰。課業例の如し。

十一月二日 庚戌 金曜 雨、后晴。月清光。
朝より雨大雨となり、已而八時頃晴たり。課業例の如し。

十一月三日 辛亥 土曜 晴朗。月清光。
早起。講堂準備。第六教場ヲ式場となし、生徒一同九時参集。校長勅語奉読、君か代唱歌、校長発声にて天皇陛下万歳ヲ三唱シ、式全畢。二階七教場にて一同茶菓を呈す。十一時総て畢、退散す。午下、塾生残り居る者廿四名を連て、予、桃子同道にて野外散歩して巢鴨宮本氏を訪ふ。小一様も幸御在邸にて、歓喜して茶よ菓子よと大く饗せられ、庭の柿、或ハ玉子をゆでさして、生徒一同大喜ひ。広き御庭散して、しいの実など拾ひ、籬の菊花種々を折らせて、一同皆々手に手に持て帰る。半日の楽しみ珍らしくて大喜ひ也。

*しいの実(椎の実)

十一月四日 壬子 日曜 晴。
朝、散歩して帰。終日揮毫す。

受信 石沢尚子、同父健次郎、秋田財部梅子。
発信 小池え小包物。

十一月五日 癸丑 月曜 晴。49(度)。
早起。散歩して帰。今朝寒気身にしみたり。始て四十度に至る。けふより綿入を着す。午下二

時より招きに応じて岩倉家二行。御法主、久々にて種々咄しも致し度とて、婦人法話会事、懇
ニ御頼みありたり。明朝御帰京、御暇乞して帰。
発信 宮城皇后宮え汲泉献上ス。

十一月六日 甲寅 火曜 晴。

朝、散歩して帰。来客、跡見ふし江是跡見暉一の親戚のもの也、山内不士。

受信 山内旭花様より。

発信 山内さまえ返書す。

*親戚(親戚)

十一月七日 乙卯 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十一月八日 丙辰 木曜 晴。

朝、課業畢る。十時より高樹町に行。五時帰。

十一月九日 丁巳 金曜 雨。

本日郊外運動挙行二付、九時、生徒一同集る。空模様あしく、乍然先々酒井伯迄行、菊花を觀
る。此時より細雨降り来りて、宮本氏行ハ先止めニ致して帰校す。生徒一同裁縫教場にて弁当
をつかふ。宮本氏にては大そう準備怠りなくて、予等教員七名、宮本氏にわひを乞ふ。庭中
所々逍遙して、菊花、柿等を得て帰。

十一月十日 戊午 土曜 晴。

泉会。午下続々會員集る。此日、弁師不来ニ付、先茶菓を呈して、一同引連、酒井氏の菊花を
觀て帰。

十一月十一日 己未 日曜 晴。

朝十時より浅草本願寺に詣す。婦人法話会廿年総会。十時より本堂にて婦人會員中死亡者の追
悼読経ニ逢。十二時より伝法院二行。一時より式執行。先開会之辞、某夫。予、会長の式辞代

読す。毛利安子祝辞。南条博士演舌、及某師此会成立の演舌。畢而余興、長唄、八雲舞等アリ。集者此席一杯、天氣の晴朗との故也。予ハ余興畢而帰。

受信 松永氏より柿到着す。

発信 横須賀山本久子え返書す。

十一月十二日 庚申 月曜 陰、后雨。

朝、散歩して帰。課業如例。午下二時より九条家ヲ訪フ。恵子様にも御目にかゝり、御出産の御子様にもはしめて御目見致し、**敞**子様と申上る。暫時にして去。夫より山内様え参りて、本日は御会式、御供養共。御晚餐を饗せられ、夜六時過去。八時帰。

*敞(アヤ)

十一月十三日 辛酉 火曜 雨。

本日遠足会、雨にて延引。

発信 福岡市湊嘉久。小村文子え。駿河松永国子。

十一月十四日 壬戌 水曜 朝雨、后止。

課業例の如し。

十一月十五日 癸亥 木曜 陰、雨。

朝、墓参して帰。新造戦闘艦薩摩進水式挙行二付、愛四郎朝六時出發す。

発信 婦人世界、水仙。婦人技芸協会、墨蘭。

十一月十六日 甲子 金曜 雨。

課業例の如し。釈浄昌百五拾回忌執行。午下二時、一同靈前に参詣す。煎茶饗応、晚餐供養アリ。

十一月十七日 乙丑 土曜 晴朗。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、清水初子、阿部伯夫人篤子。

受信 房州跡見より。宮城篤志婦人会より刺繡花瓶敷着。

発信 宮城赤十字社篤志看護婦人会宮城支会長松永富子え。

十一月十八日 丙寅 日曜 雨、又陰。

終日揮毫ものす。来客、長谷川幸子、仁科駒。

受信 桑港津田弘視より端書着。

十一月十九日 丁卯 月曜 雨。

朝、散歩して帰。午下酒井伯え行。やかて二時半頃、閑院宮両殿下成らせられ、続て三条御後室、毛利五郎、鍋島成子、前田子後室夫人、石本新六。夫より御庭園の菊花御覧。夫より御洋館にて北村氏音楽、薩摩琵琶二曲、園遊落語二席、済て日本御座敷にて御餐を奉られたり。此間、吉村、杵屋長唄、勸進帳、藤間踊、浦島、越後獅子、十八人、三弦、大鼓、小鼓、笛、大鼓、実に立派なるもの也。十一時帰。閑院宮両殿下、酒井氏え成らせられ候二付、予を御招待を得る。来客、安部信子。

茂木栄子、中村元子此度結婚ニ付御礼に来る。

*園遊(円遊) *吉村(芳村) *大鼓(太鼓) *予を(予も)

十一月二十日 戊辰 火曜 陰、夜雨。

絹本一幅と額面揮毫して、微恙ありて臥。

十一月二十一日 己巳 水曜 晴朗。夜、六日の月清し。

朝八時より四ッ谷停車場に行。閑院宮両殿下、赤十字及愛国婦人会山梨総会に御台臨ニ付、九時四十分御発車奉送して帰。来客、穴沢米子、一泊。

十一月二十二日 庚午 木曜 晴。

課業例の如し。

十一月二十三日 辛未 金曜 晴。

課業例の如し。午下二時より、予、愛治郎、正子、沢伯より招かれて行く。実に珍らしき事也。庭の樹木を上げたれを、庭の手入落成したるとて、久々種々なる御饗応にて、八時過帰。来客、

沼尻静子、其母と菊池氏に嫁したる御礼に来る。

*上げた(れ(ママ))

十一月二十四日 壬申 土曜 晴。

課業例の如し。午下三時半より四ッ谷停車所に行。閑院宮妃殿下山梨総会畢而還御成る。奉迎する。[重たけ](#)、房州より帰る。

*重たけ(重威)

十一月二十五日 癸酉 日曜 晴。

朝九時より観世別会能楽を見る。予、正子、桃子と同道。帰途五軒町を問て帰。

十一月二十六日 甲戌 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。揮毫ものす。

(十一月二十七日〜二十九日、記載ナシ)

十一月三十日 戊寅 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業畢る。閑院宮様え参る。御頼みの御用談済て帰。

(十二月)

十二月一日 己卯 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業畢る。午下一時より義勇艦婦人部記念会、華族会館に於て執行。さくら丸の雛形出来て説明あり。夫より余興に移る。予は四時退散して借楽園に行。志賀鉄千代子、島田信子等先有。三宅、斎藤等と会す。八時退散す。

十二月二日 庚辰 日曜 晴。

朝、散歩して姉伯及五軒町を訪問して帰。

十二月三日 辛巳 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十二月四日 壬午 火曜 晴、夜雨。

朝、散歩して帰。

十二月五日 癸未 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。昨夜、賊入来りて事務所宮沢見付て追ちらす。何も取り得ずして逃たり。夜〇時三十分、白山辺火。

十二月六日 甲申 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

発信 秋田財部氏え端書出ス。

十二月七日 乙酉 金曜 晴。

課業一時間にして畢。明日準備に忙し。本日、姉小路公義伯の三周忌引上げ法事執行される。朝十時、光円寺にて読経畢而姉家二行。御叮嚀なる昼餐の御供養。一同四時帰。

十二月八日 丙戌 土曜 晴。夜二時頃より雨。

朝、散歩して帰。課業一時間にして。本日、泉会厚徳会合併忘年会二付、会員たまり処ハ裁縫教場、習字教場、本舞台となる食堂、一年教場。先十二時頃より会員来集す。集る者七十人余。午下二時より活人画七福神、浦島遊技、さや当、紅葉狩、喜劇**仮相遊技**、厚徳会の余興面白し。皆感に入たり。食堂、御すもし、**さんといつち**、御汁粉、みかん、菓子、**せん餅**、**大困雑**。夜八時全済。

*仮相遊技(仮装遊技) *さんといつち(サンドイツチ) *せん餅(煎餅) *大困雑
(大混雑)

十二月九日 丁亥 日曜 晴。 山内様御出約束。

朝、散歩して帰。奥座敷此日を以てすへ付出来ず。午下三時山内様御出にて、画室にて種々閑談。五時御帰りなる。

十二月十日 戊子 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十二月十一日 己丑 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。終日揮毫ものす。

十二月十二日 庚寅 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。揮毫ものす。田中氏より釈迦之幅物請取。代貨金貳円。

受信 秋田財部より手紙及小包着。

発信 秋田財部え文及写真出す。

十二月十三日 辛卯 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

十二月十四日 壬辰 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。実業の日本社主増田氏来。内部写真撮影する。来客、原安子、御歳暮に。

十二月十五日 癸巳 土曜 晴。

田口静子五十日。朝、散歩して墓参して五軒町を訪て帰。課業例の如し。

発信 遠州跡見輝一え書画小包出す。

十二月十六日 甲午 日曜 晴。

朝、散歩して帰。絹本二幅揮毫ス。

十二月十七日 乙未 月曜 雨。

朝より雨ふり出したり。昼頃雷鳴盛んなり。課業例の如し。

発信 大坂美尾野え鮭二尾。京都近方えするめ。

*近方(近万)

十二月十八日 丙申 火曜 晴。

朝、散歩して帰。朝九時より予、正子と同しく白木やえ買物二行て帰。

*白木や(白木屋)

十二月十九日 丁酉 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、石山基威。高橋鶴巻、其母と来る。此度縁談治定二付御札に来る。

発信 山中秀子え手本二冊小包にて出す。

十二月二十日 戊戌 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。宮様の御組ハ今日にて御稽古納をなす。

受信 美濃遠藤より漬物二樽着。

発信 加藤富子え絹本画出す。

十二月二十一日 己亥 金曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、河緒実文子、毎日電報記者菅野須賀子。

発信 大坂毎日新聞え画を出す。

十二月二十二日 庚子 土曜 晴。

本校授業納ニ付運動場にて唱歌練習。畢而一同に拮別をなして、十二時皆退散す。塾生五十人余帰省す。来客、玉枝。

発信 伊豆小川清え。備後羽原良二え。

*拮別(訣別)

十二月二十三日 辛丑 日曜 晴。

朝、散歩して五軒町を訪て帰。終日揮毫ものす。

十二月二十四日 壬寅 月曜 晴。

朝、散歩して帰。午早々青山、千駄ヶ谷え行て帰。

十二月二十五日 癸卯 火曜 晴。

朝、散歩して帰。揮毫ものす。午下より五軒町姉伯え歳暮申入て帰。

十二月二十六日 甲辰 水曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、**重たけ**、仁科駒、岩浪稲子、石山すま子。

受信 天下茶屋より昆布着。

***重たけ**(重威)

(十二月二十七日、記載ナシ)

十二月二十八日 丙午 金曜 晴。

今朝六時四十分汽船にて**重たけ**、初、辰雄、渡房する。愛四郎送り行。

***重たけ**(重威)

十二月二十九日 丁未 土曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

十二月三十日 戊申 日曜 晴。

朝、霜雪の如し。揮毫のたのまれものも済て、年始賀状絵端書二百八十枚書上て出す。
美尾野より**かふら漬**一樽着。

受信 **重たけ**より書至。廿八日渡房の船、風あらくよほと困難のよし申来る。

***かふら漬**(蕪漬) ***重たけ**(重威)

十二月三十一日 己酉 月曜 晴。

早起。掃除、居間飾付等もすへて一月の準備とゝのひたり。一家病人もなく歳暮の祝義申替して、めでたき年の暮なりけり。今年は津田よし子、弘孝の人数ふえて賑しき。天気は日々晴朗、月満光十五夜也。

事なくて六十七とせ暮にけり家も広こり子等もふえたり
*祝義(祝儀)

(明治三十九年会計)

月日	摘要	収入	支出
一月			
四日	桃子、鶴子、弘え年玉		三円
同	車夫え祝義		一円 *祝義(祝儀)
同	坂のあとおしえ		十銭
五日	車夫え祝義		五拾銭 *祝義(祝儀)
六日	車代		廿銭
同	電車往復		八銭
五日	九条家外二軒え車代		
六日	小松宮橋場行		
同	車夫え祝義		五拾銭 *祝義(祝儀)
七日	福寿草十五本		廿二銭
	横川氏	金二円	
八日			
九日			
十日	懐炉一箇		廿銭
同	堀田氏土産物割		七拾五銭
同	釧解料		五拾銭 *釧解料(訓解料)
同	外、取替		二円
同	車代、堀田行		

	○十三日	泉会費	一円
	十四日	東洋婦人会十一、十二、一月	一円五十銭
	十六日	女中二人え祝義	一円 *祝義(祝儀)
	十三日	堀田伯より	三円七拾五(銭)
	十六日	原町及青山行	
	十七日	愛国婦人会会費	五十銭
	同日	海事協会金山氏送別二付記念品を送る	一円
	同日	児玉氏及偕行社行	
	同日	電車代及車代共	十八銭
	十九日	杖一握	三十五(銭)
	同日	おもちゃ二	十五(銭)
	二十日	足袋洗濯五	
	三十日	中山氏、鍋島邸	
	同日	夜会会費	一円
	一月分雑費	金拾三円五拾六銭也	
	會計より	一月分	十円
	三十一日	卓一脚	八拾銭
二月			
	一日	會計より	拾(円)
		余金	五(円)
	五日	凶作地え給助金	一(円)五(十銭)
	六日	三条家、山内家行	
	七日	筆一本	廿銭
	同日	齒磨、象印	十五銭
	八日	車代	廿銭
	同日	訓解代	五十銭
	十日	泉会費	廿銭
	同日	妍精画報	廿銭

	十四日	八丈張代		十八錢
	十五日	加茂氏潤筆	五円	
	十七日	小松宮行		
	同日	シヨール代		四円
	同日	日本橋迄車代		廿錢
	十八日	婦人世界潤筆	拾円	
	十九日	千賀氏より	廿八円五拾(錢)	
	同日	正子より	拾五円	
	同日	預金		五拾円
	廿四日	車代		廿錢
	同日	沼津小包代		廿錢
	廿四日	歌舞伎		*歌舞伎(歌舞伎)
	同日	車夫え心附		一円
	廿五日	時事新聞代		四十五(錢)
	廿六日	三条家より	拾五円	
	同日	小松宮家より	二円	
	廿七日	あんま代		十五(錢)
	廿八日	足袋五、洗濯		十二(錢)五(厘)
	同日	紋羽二重色上代		一円五十錢
	同日	本郷貯蔵銀行に預ル		廿円
	同日	車代		二円五五錢
	同日	觀世会		一円
	総計	出 八拾四円五拾錢		
		入 九拾円廿錢		
	残金	廿式円廿三錢也		
三月	一日	會計より	拾円	
		觀世供もの		式(円)

	鎌くら行費		貳(円) *鎌くら(鎌倉)
二日	車代		五十銭
五日	あんま代		十五(銭)
六日	ぬけ毛代		十銭
同	教育会一、一(二)、三月分		三十銭
同	松岡とみ子より	壹円	
十日	訓解代		五拾銭
七日	慈善演芸寄附		拾円
十日	三条信受院殿	2(円)5(〇銭)	
同	泉会費		2(〇銭)
十一日	石山氏より	拾円	
十二日	車代		10(銭)
十四日	東亜仏教会一、二、三(月)		60(銭)
十五日	松本清潤筆	5(円)	
十五日	鎌倉小包代		十五銭
十七日	牛込授産会一月より六月迄		壹円廿銭
十八日	車代		十銭
廿一日	品川行車代		廿銭
同	車夫え		十五銭
廿二日	あんま		一(銭)五(厘)
同	灯しん一		*灯しん(灯心)
廿三日	房州え小包		十銭
同	峰氏え書留		十銭
廿五日	愛国婦人新聞		三拾六銭
廿九日	車代		廿銭
三十日	若山久子より	七円	
	観世会、三月分		一円
	絹や、きめりんす六尺一寸		一円十七銭

	三十日	車代		十銭	
	廿八日	三島え小包代		廿銭	
	三十一日	井深氏		十銭	
	三十一日	不門、はりもの		廿銭	
	同	品川行車代		一円廿銭	
	同	足袋十、洗濯		廿七(銭)五(厘)	
	同	小遣		廿二(銭)五里(厘)	
	同	電車代		九十五(銭)	
	総計	出 廿四円四拾三銭也			
		入 金三拾五円五拾銭			
	差引残	拾壹円七銭也			
	先月越高	＼廿貳円廿三銭也			
	総残金	廿七円廿八銭也			
四月					
	一日	会計より	拾円		
	同	藤堂氏より	貳円		
	同	車代		廿銭	
	二日	車代		廿銭	
	同	汽車大森迄		廿一銭	
	三日	伊藤政野より	拾円		
	同	田口静子より	三円		
	同	松田氏より	三円		
	同	津田下婢え		五拾銭	
	同	車代		十銭	
	同	箱田斎藤小包		廿銭	
	四日	東洋婦人会一、三(月)分		一円	
	同	尾張や銀行預金		廿八円	*尾張や(尾張屋)

*きめりんす(生メリンズ)

同日	深川行車代		
同日	吉沢得子より	五円	
五日	三宅松子より	二円	
同日	今井琴子	一円	
同日	阿部米子	五円	
六日	手帳、木筆		廿四銭
七日	東洋婦人会四月		五拾銭
同日	植物園切符		拾銭
同日	横川氏より	二円	
同日	木(キ)村文字	拾円	
八日	車代		十銭
同日	牛込弁天町迄		
九日	洋食や		二円卅七銭 *洋食や(洋食屋)
同日	研精会		廿銭
十日	蝙蝠傘代		五円
同日	緋めりんす六尺五寸		二円
			*緋めりんす(緋メリンス)
同日	車代		廿銭
同日	井上君子より	五円	
	(記述ナシ)		壹(円)〇六(銭)
十一日	印紙代		五(十銭)
十二日	車代		十(銭)
十二日	弥生町行車代		
十三日	伊藤悦太郎	三(円)	
	訓解代		五拾銭
十四日	尾張や銀行預金		三五(円) *尾張や(尾張屋)
同日	堀田伴子	二(円)五(十銭)	
同日	泉会費		廿(銭)
十五日	浅草法話会		三円六十(銭)

	同	安井氏え		一(円)
	同	車代		廿(銭)
	廿日	車代		十(銭)
	廿一日	青山及木挽町行		
	同	車あと押		五(銭)
	廿二日	草花もの		十(銭)
	廿三日	中村元子	拾円	
	同	松平妙子	五円	
	同	井上清子	五円	
	同	キレー紙十帖		三八銭
	同	弘え		一円
	廿六日	牛込授産会四月分		廿銭
	廿五日	毛利美佐子	七(円)五十銭	
	廿六日	車代		三拾銭
	廿七日	校友会え寄附		五円
	廿九日	本郷四迄車代		三拾銭
	三十日	四月分払		九(円)二四(銭)
	合計		九一(円)	九八(円)八九(銭)
	前月残高／本月残		二七(円)二八(銭)	一九(円)三九(銭)
	惣計		一一八(円)二八(銭)	一一八(円)二八(銭)
五月分				
	前月残高		一九(円)三九(銭)	
	一日	五月分受取	一(十円)	
	同	勘定不足		三六(銭)
	二日	当坐預ヶ金		二五(円)
	一日	丸内九段行車代		
	二日	加藤八重子より	一五(円)	
	二日	不門え、黒羽二重羽織色上		一(円)五(十銭)

五日	小山仲子より	一五(円)	
同	電車代		一(円) 四七(銭)
同	不門え、吉野織色上もの		一(円) 五(十銭)
四日	三越、紋羽二重羽織染もの		三(円)
同	三越、紋羽二重染物	十二日請取	二(円) 六(十銭)
五日	サントイーチ		二(十銭)
同	吉宗栄子より	一(円)	
六日	九条迄車行		
同	対州雲丹一本		七八(銭)
八日	訓解代		五(十銭)
同	車代		十四(銭)
十日	物集氏潤筆	五(円)	
十一日	大岳六三郎潤筆	一(円)	
十二日	当座預ケ金		三(十円)
十二日	染物、三河や、請取		
十三日	代々木行		
十五日	婦人世界より	拾(円)	
十七日	麻布行		
十九日	郵券五十枚		一(円)
同	上野行		
同	ゆかた一反		一(円) 五(十銭)
廿日	電鉄回数券		九五(銭)
同	車及電車代		三八(銭)
十一日	宮城行		
同	柏もち		三九(銭) *柏もち(柏餅)
廿日	観世会		一(円)
同	按摩		十五(銭)
廿二日	車代		十五(銭)

*サントイーチ(サントイツチ)

同	代々木より新橋迄		一(円)
廿三日	菓子		二(円)
同	電車代		十(銭)
同	高輪行		
廿四日	赤十字三九年二期分		一(円)
同	東京市教育会、自四月至六月		三(十銭)
廿五日	石川君子		五(円)
同	谷謹一郎潤筆		三(円)
三十日	日本美術協会四、五両月分		五(十銭)
廿二日	サントイーチ		廿二(銭)
			*サントイーチ(サントイツチ)
廿八日	按摩		十五(銭)
十五日	牛島行汽車代其外		一(円)
	生めりんす大巾三尺、半巾弐尺、絹や		*生めりんす(生メリンス)
廿七日	歌舞伎行		*歌舞伎(歌舞伎)
三十一日	車代		六(円)四(十銭)
同	足袋洗濯五		十二(銭)五(厘)
	合計	八四(円)三九(銭)	八三(円)八五(銭)五(厘)
	残金	五五(銭)五(厘)	
六月分			
一日	会計より		十(円)
二日	ぬけ毛、ひん附		
三日	車代		廿(銭)
同	汽車代		一(円)十一(銭)
同	車代		三(十銭)
四日	大院品一		
同	ゴム一		二(銭)
十日	御花代		五(十銭)

同	光円寺車代		
十一日	電車代		十六(銭)
十一日	めりんす友仙巾八尺		一(円)四八(銭) *めりんす(メリンズ)
同	東洋婦人会四、五、六(月)		一(円)五(十銭)
六日	植物園切符		二(十銭)
十一日	時事新報		四五(銭)
同	東亜仏教会四、五、六(月)		六(十銭)
九日	泉会費		廿(銭)
九日	按摩		十五(銭)
九日	向山蔵子より	五(円)	
十四日	軍事公債利子	七(円)三四(銭)	
十三日	京都錦織え小包		十(銭)
同	京都大聖寺え小包		十(銭)
同	小川え筆代		三(円)
十九日	愛国婦人会本年分		二(円)
同	研精会		二(十銭)
廿日	青柳氏より	二(円)	
同	川津、五軒町、車		
廿二日	常陸窯一箱		一(円)
同	かきかちん一罐		一(円)
廿三日	閑院宮様行		
同	志賀華族会館行		
	黒絹色上ケ、普門		一(円)五(十銭)
	足袋洗濯五		十二(銭)五(厘)
	セル単衣洗濯		廿二(銭)
廿八日	閑院宮様より	三(十円)	
同	九条家	二(円)五(十銭)	
三十日	半切代	三(円)八(十銭)	

同	車代		二(円)七五(銭)
同	ゆかた一反		一(円)七(十銭)
	観世会		一(円)
	時事新聞		四五(銭)
	新場のばゝ		一(円)
	ベ	六一(円)一九(銭)五(厘)	二四(円)五一(銭)五(厘)
	本月残	三六(円)六八(銭)〇(厘)	
合計		六一(円)一九(銭)五(厘)	六一(円)一九(銭)五(厘)
七月一日より			
一日	会計より	一(十円)	
三日	毎日新聞より	三(円)	
四日	ぬ号		五(円)
同	メリンス友仙大巾九尺		二(円)廿一(銭) *友仙(友禪)
同	せん餅		二十(銭) *せん餅(煎餅)
七日	園祥子	三(円)	
同	女官様五人より	拾五(円)	
八日	訓解代		五(十銭)
同	薫風会費		十(銭)
十日	ニカハ		廿(銭) *ニカハ(膠)
同	按摩		十五(銭)
十一日	弘、鶴子え		二(円)
十一日	\按摩		十五(銭)
同	三条家		二(円)五(十銭)
同	松平妙子		五(円)
同	郵便、扇子送り		六(銭)
十三日	わしたえ		二(円)五(十銭) *わした(鷺田)
十四日	華族会館行		

	十五日	北白川御殿行		
	同	\車夫え祝義		五十(銭)
	十六日	田中久子		五(円)
	廿一日	安田氏		三(円)
	同	藤堂氏		二(円)
	廿三日	松本清子		四(十円)
	同	渡辺愛子		廿(円)
	廿四日	三輪哥子		五(十円)
	同	同		二(円)
	同	\按摩		十五(銭)
	同	饅飯(ママ)		三(十銭)
	一日	手帳		二(四)銭
	同	井深氏へ		二(円)五(十銭)
		高木町へ		二(円)五(十銭)
		車代		二(円)九(八)銭
		美術協会		五(十銭)
		新聞代		四五(銭)
		井深薬代		九(八)銭
		案摩		四(十銭)
		食パン		三(銭)
		観世		一(円)
		小計		一六一(円)五(十銭)
		前月残		二五(円)六(銭)
		合計		三六(円)六(八)銭
				一六(十円)
				一九八(円)一(八)銭
				一八五(円)六(十銭)
八月一日				
同	手当			一(十円)
	現金			八(円)

明治三十九年金錢收支比較表

一月支出	廿七円八十二(錢)	一月收入	拾五(円)七二錢
二月支出	八四円五十(錢)	二月收入	九(十円)廿(錢)

毎月会費

四、五、六、七、八、九分	東洋婦人会	一円五十錢
五、六、九、十	研精会	廿錢
五、六、七、八、九、十	訓解	五十錢
五、六、七、九、十	泉会	廿錢
五、六、七	牛込授産会	廿錢
五、六、七、八、九、十	觀世会	壹円
三十九年四月より九月迄六ヶ月分	愛国婦人	三拾六錢
五、六、七、八、九、十	東亜仏教会	廿錢
六、七、八、九、十	時事新聞	四十五錢
五、六、七、八、九、十	東京市教育会	十錢
五	赤十字二期分	壹円
五、六、七、八、九、十	日本美術協会	廿五錢
三十九年分済	婦人法話会	三円六拾錢
七、八、九、十	薰風会費	十錢
三十九年分済	愛国婦人会	二円也